令和８年度 第１回 松木中学校区３校合同学校運営協議会 議事録

日時： 令和８年７月 22 日（水）19 時～20 時 30 分
場所： 松木中学校 図書室（３階）
司会： 松木小学校運営協議会会長 田所喬
記録 ： 松木中学校運営協議会委員 北村俊幸

《 次第 》

１、開催趣旨説明 （松木地区三校合同学校運営協議会会長 金山滋美）

これまで複数校の学校運営協議会委員を兼務することで情報共有を進めてきたが、持続可能な体制を考え、今年度は委員の重複をできるだけ減らす運営に変更した。

本会は年 2 回開催する合同会議の第 1 回であり、各校の学校運営協議会の取組を共有し、互いの状況を理解することを目的とする。

後半には意見交換の時間を設け、3 校で学び合う場としたい。

２、委員自己紹介

参加委員から自己紹介を実施

３、３校より校内報告

３校校長から、それぞれの学運協と同じスタイルで報告を実施

４、３校より避難訓練について

３校副校長から、北区小学校内での火災事案を受けた確認も含め共有

５、熟議「魅力ある学校になるためには」

６、グループの話合いの共有（次ページにまとめ）

７、総括 （松木中学校校長 柳田裕司）

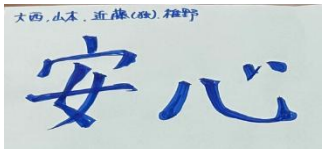
地域とのつながりが子どもの成長を支える

合同会議を通じて、子どもたちの現在と将来の幸せを実現するためには、学校・家庭・地域のつながりが重要であることを改めて実感した。

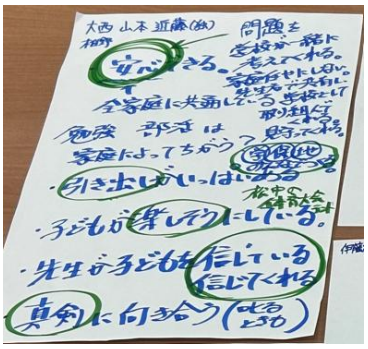
全国学力・学習状況調査でも、本校の生徒は「家族と学校の話をする」「先生が自分の良さを認めてくれる」「将来、人の役に立つ仕事に就きたい」と回答する割合が全国・東京都平均を大きく上回っており、多くの大人が関わって子どもを育ててきた成果だと考えている。今後も３校が連携し、子どもたちが将来笑顔で暮らせる社会を目指して、地域全体で子どもの成長を支えていきたい。

大西・山本・近藤・椎野グループ

安心できる学校が魅力の土台



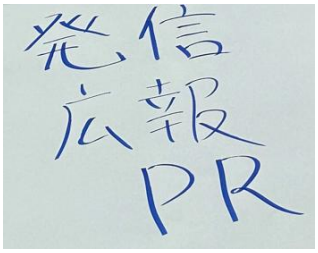
魅力ある学校の根底には「安心」があるという意見で一致した。子どもが楽しそうに過ごしていることや、先生が子どもを信じ、叱る時も真剣に向き合ってくれることなども魅力だが、それらはすべて安心感につながっている。また、松木中学校の体育大会で多くの保護者がテント撤収を手伝っていた様子からも、学校・家庭・地域が一体となって学校を支える環境そのものが、安心と魅力を生み出していると考えた。



炭谷・筒井・佐藤・上国料グループ

魅力は「ある」だけでなく「伝える」ことが重要

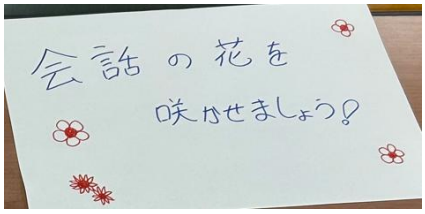
学校には多くの魅力があるものの、その魅力が十分に発信できていないことが課題として挙がった。大学がオープンキャンパスなどで積極的に PR しているように、学校も特色や取組をもっと発信する必要がある。児童生徒交流会など既に実施している取組には一定の効果が見られるため、対象学年や実施時期も工夫しながら、魅力を伝える機会を増やしていくことが重要である。



国富・近藤・吉岡グループ

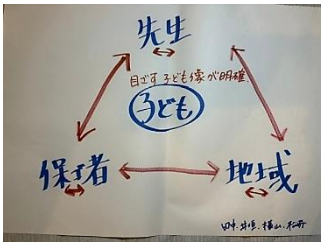
家庭で学校の話題が生まれる学校

家庭で学校や先生、学校行事について会話が生まれること自体が、魅力ある学校の一つの姿ではないかという意見が出た。家庭内で学校の出来事が自然に話題となり、それを通して学校への関心や親しみが深まることが、子どもの安心感や幸福感にもつながるのではないかと考えた。



松崎・田中・横山・井垣グループ

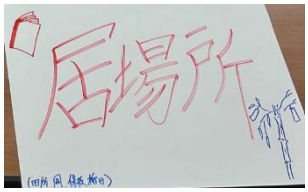
育てたい子ども像が明確な学校



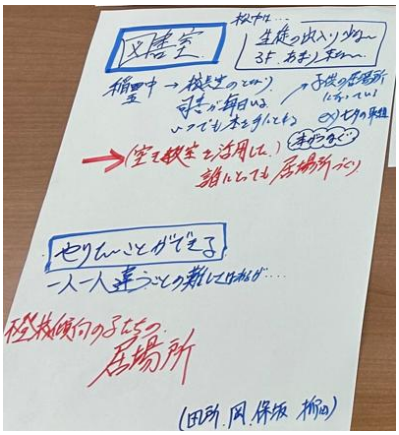
「この学校に通うと、こんな子どもに育つ」という目指す子ども像が明確な学校は魅力的であるという意見でまとまった。その実現には、子どもを中心に、保護者・教職員・地域がお互いに良好な関係を築き、学校の様子がよく見え、安心して通わせられる環境をつくることが大切である。

田所・岡・保坂・柳田グループ

誰にとっても居場所のある学校



子ども一人ひとりに「居場所」がある学校こそ魅力ある学校であるという意見が出た。実例として、図書室が学校の中心にあり、司書が常駐している学校では、子どもたちが自然に集まり、本を読むだけでなく交流や会話も生まれていた。図書室は子ども同士や先生とのつながりを生み、不登校傾向の子どもにとっても安心できる居場所となる可能性がある。空き教室なども活用し、多様な居場所づくりを進めることが魅力につながる。



金山・伊藤・北村グループ

地域資源を生かした「楽しく、分かる授業」

魅力ある学校の大前提は、子どもにとって「楽しく、分かる授業」があることであるという意見で一致した。そのためには、教員の工夫だけでなく、地域の自然や施設、人材、地域行事などの特色を教育に取り入れることが重要である。地域資源を 9 年間の学びの中で継続的に活用し、子どもたちの成長につなげることが学校の魅力になると考えた。

